

入院診療計画書(直腸切除術を受ける患者様へ)

ID番号 @PATIENTID
 病名(他に考える病名)
 担当医師 @USERNAME

氏名 @PATIENTNAME 様
 担当看護師

症状
 担当薬剤師

病棟
 @PATIENTROOM 号室
 @SYSDATE

月日	入院日 術前々日	術前日	手術日(/)		術翌日	術後2日~4日目	術後5日目	術後6日~ 日目	術後 日目	退院日
			術前	術後						
経過	入院や手術に関して不安があれば、遠慮なく相談してください	検査データを確認しながら、手術へむけて準備を行います。術前準備を行います	()時に手術室へ移動します	術後は病室に帰ります	注意点を守りながら、少しずつ、日常生活のリズムを戻していきましょう	水分開始になります むせり・吐き気がないか	食事開始になります 少しずつ、よく噛んで、時間をかけて食べて下さい。			退院
目標		術前日の流れ ()時~絶食 ()時~絶飲食	朝起きてから手術に行くまでの流れ							外来受診について定期受診は必ず行なうようにしましょう。
検査	手術に必要な検査をします	□おへその周りの毛を剃ります おへそのそうじをします	□麻酔科医師の指示の内服薬があれば服用してください		採血・レントゲン写真	採血・レントゲン写真	必要に応じて採血・レントゲン写真			(退院まで)
処置	基本的に、処置はありません	□入浴 □点滴 □10時 } 下剤を服用します □14時 □腕に名前を書きます(医師) □準備品の確認をします	□前あきの下着、病院のジャマに着がえて下さい □弾性ストッキングをはいて下さい 弾性ストッキングは看護師側で用意します □化粧やマニキュアを落として下さい □義歯、めがね、時計、ヘアピン、指輪を外して下さい。家族の方に、貴重品を渡して下さい	点滴 心電図モニター 酸素吸入 尿の袋 繋がっている 胃の管	酸素と心電図モニターが終了します 尿の管と胃の管が抜けます	痛み止めの管が抜けます お腹に管が入っている場合主治医が抜きます			術後7日目に半抜糸 8日目に全抜糸します	以下の症状があるときは受診日以外でも来院してください。 ・腹痛がひどい時 ・排便、排ガスがなく、お腹の張りが続いている時 ・嘔吐が続き、吐き気がひどい時 ・黒い便が出た時 ・高熱が出たり微熱が何日も続くような時 わからない点、疑問点がありましたら、何でも医師や看護師にご相談ください。
注射	基本的に、注射はありません	不安なときは、ポータブルトイレを用意します	不安なときは、ポータブルトイレを用意します							
内服	飲んでおられるお薬は全て看護師にお知らせ下さい									退院時、必要な分のお薬が処方されます
食事		術後許可が出るまで、飲んだり食べたりできません		術翌日まで、3時間ごとに検温に伺います	必要に応じて、ポータブルトイレや尿器を用意します	初めて歩行する時は、看護師が付き添います。術後早期に歩き始めた方が、回復も早くなります。				職場復帰、旅行などは医師に相談して下さい
清潔行動	活動、入浴に制限はありません	入浴のときは…熱いお湯は体の疲労を伴います。長湯にならないようにしましょう。	病棟を離れるときは、看護師にお知らせ下さい。	痛み止めについて… ・点滴から痛み止めを注入する場合 ・背中に管を入れて痛み止めを注入する場合 いずれにしても、痛いときは我慢せずに教えてください	シャワーの許可出るまで体を拭きます	ドレーンが抜けたらシャワー可 傷の部分はこすらず、シャワーで流す程度にして下さい				
説明	病棟での日常生活をご案内します 手術の予定を説明します	麻酔科医師と、手術室の看護師の訪問があります								□次回予約票が渡されます □リストバンドを外します
腸の手術を受けられる方へ	スーフル呼吸訓練行って下さい 必ず禁煙して下さい	腸には、食品の栄養分が吸収された後の残渣物から水分を吸収し、便を作る働きがあります。手術によって腸の中に残渣物が留まる時間が短くなり、下痢の傾いたり便秘に傾いたり、排便の調節が難しくなっています。腸閉塞が起きやすい状態になっていますので、食生活に十分に気をつけて、排便調節をしていく必要があります。		食事について… 偏食をさけ、バランスのとれた食事を心がけて下さい。 以下の食べ物は、控えるかよく噛んで食べて下さい。 ・熱すぎたり、冷たすぎたりする食べ物 ・刺激の強い食べ物…香辛料・わさびなど ・消化の悪い食べ物…イカ・たこ・するめ・キノコ類・海藻類など その他 ・下痢になりやすい食べ物…冷たい牛乳・天ぷら類・アルコール類・アイスクリームなど ・便秘を予防する食べ物…野菜類・バナナ・プルーン・果物など		安静運動に関して… 適度な運動は、腸の血行を良くし、動きを活発にします。軽い散歩や体操などから始め、体を慣らして行って下さい。疲れたら無理をせず、休息を取って下さい。	便秘になったときは… ・腹部「の」の字を描くようにマッサージする。 ・水分を多めにとり、食物繊維の多い食品をとる。食物繊維の多い食品→パン・玄米・豆・芋類・果物・バナナなど ・下剤の乱用は慎む。	下痢になったときは… ・腹部の保温(腹巻き・ほっかいろう使用) ・脱水になりやすいので、水分を補給する ・暖かい消化の良い食べ物を摂取する。(お粥・煮込みうどん・葛湯・ヨーグルトなど) ・以前より下痢を起しやすかった食べ物は、術後も控える。 ・下痢止めの薬の乱用は慎む		

注1) 病名は現時点で考えられるものであり、今後の検査等を進めていくにしたがって変わり得るものです。

注2) 入院期間については現時点で予想されるものです。

上記内容について説明を受け同意いたしました

署名:

続柄:

特別な栄養管理の必要性
 有 無